

ロータリー交差点改良による渋滞状況の変化分析

復建調査設計株式会社 山下大輔

1. 業務フロー

分析条件の確認	分析対象時間帯、範囲などを協議 対象時間帯:朝夕ピーク時、対象範囲:右図の通り
交通状況の確認	現地の交通状況の確認 シミュレーションに反映すべき交通状況を現地に行き確認
交通データの収集	交通シミュレーションに入力する交通データを収集 交通量、交通流動、渋滞長、旅行速度調査等を実施
現況SIMの作成	現在の幾何構造データ及び交通データを設定 線形や車線数、停止位置や車種別交通量、信号現示を設定
現況再現性の確認	交通挙動や渋滞状況を再現 交通挙動(滞留状況、ゆずり挙動や車線変更挙動)などを再現
将来予測SIMの作成	将来の幾何構造データ及び交通データを設定 対策実施後の線形や車線数、停止位置や信号現示を設定
施策の評価	施策による渋滞状況の変化を分析・評価 対策実施後の交通処理状況を分析・評価

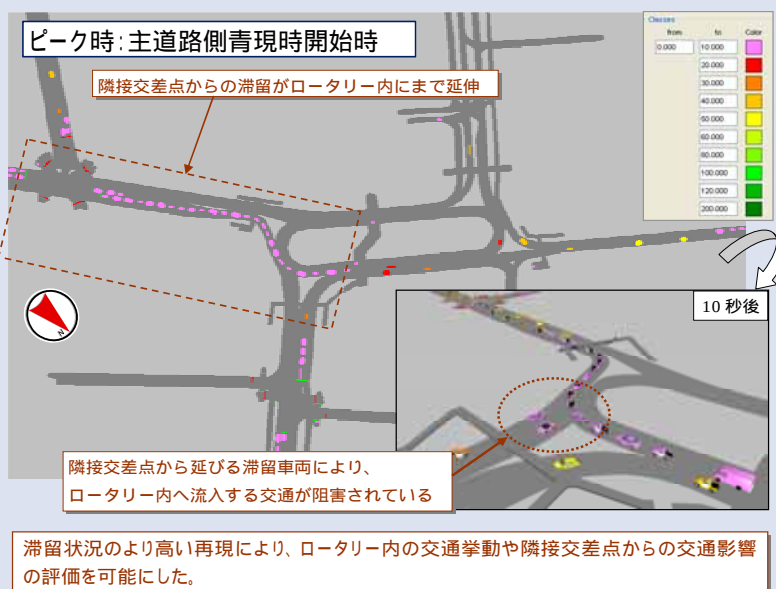
■ 分析対象範囲



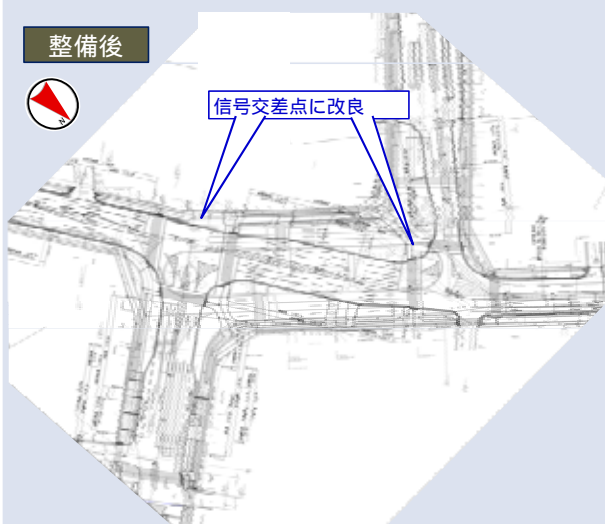
2. 交通状況の確認



3. 現況再現性の確認



4. 将来予測シミュレーションの作成、施策の評価



改良によって渋滞は発生しないことを確認
近接交差点間の滞留スペースが十分にあることを確認
また歩車分離による信号制御をしても問題ないことを確認
主道路だけでなく、従道路側にも近接する交差点があるが、オフセット制御などの信号制御方法の工夫が必要であることを確認